

私立大学研究ブランディング事業 成果報告書

学校法人番号	271006	学校法人名	常翔学園
大学名	大阪工業大学		
事業名	モノづくり大阪に躍動感をー地域産業支援プラットフォーム(大阪工業大学)の挑戦ー		
事業成果	<p>事業によって得られた研究成果や特色 本事業を通じて、学部横断で構成されたメンバー同士の情報共有が強化され新しいシーズが生まれた。また、大阪商工会議所、大阪産業技術研究所との包括連携協定締結を契機に、「ものづくりの発展に寄与する大学」という意識が向上した。本事業期間(2017～2019年度)に得た研究成果は以下の通りである。いずれの項目も当初目標をほぼ達成しており、特に「共同・委託研究」と「学術指導・相談」では、地域産業支援プラットフォーム(OIT-P)を拠点とした活動推進によって、大幅に件数を伸ばした。 2017年度:共同・委託研究35件、学術指導・相談11件、外部資金獲得(9,721万円)、論文41件 2018年度:共同・委託研究68件、学術指導・相談7件、特許出願3件、外部資金獲得(5,296万円)、論文52件 2019年度:共同・委託研究71件、学術指導・相談31件、外部資金獲得(9,516万円)、論文53件</p> <p>社会全般に対する情報発信 HPやマスメディアを通じた広報ならびに学内外での展示会・セミナーの開催と参加により、情報発信を積極的に行った。これによって、大学が有する研究シーズを産業界へ展開する機会が増え、本学の研究ブランド向上につながった。また、事業採択を契機に、大学内においても情報発信の重要性を教員ならびに事務職が共有し、大学独自の研究展示会”OIT Innovation Days 智と技術の見本市”を開催するに至った。 2017年度:講演会・展示会9件、マスメディアの取上げ3件 2018年度:講演会・展示会20件、マスメディアの取上げ14件 2019年度:講演会・展示会22件、マスメディアの取上げ15件</p> <p>事業経費の活用 本事業の補助金は、今回設置したOIT-Pの運営・活動経費に充当した。具体的には、研究コーディネーターの人件費、情報発信環境の整備費、研究設備費、セミナーや展示費、産学連携にかかる経費である。</p>		
今後の事業成果の活用・展開	<p>大阪産業技術研究所 大阪商工会議所との関係 大阪工業大学では、私立大学研究ブランディング事業を地域産業支援プラットフォーム(通称OIT-P)という位置づけで展開してきたが、今後も大阪工業大学の研究ブランディングを推進するに当たっては大阪産業技術研究所、大阪商工会議所と様々な分野で密に連携し、プロジェクトを推進しながら強力なパートナー関係を構築していく。</p> <p>大阪工業大学研究プラットフォーム群への発展 その強力なパートナーシップを活用して、大阪工業大学ではOIT-Pを全学的に発展させ、新しい研究プラットフォーム群を構築する学内のコンセンサスを得た。研究プラットフォーム群では、組織横断型の学内研究プロジェクトを推進すべく学内公募を行い、採択された研究プロジェクトに対しては校費での研究助成金を支給し、プロジェクトを推進する。 一方、単に助成金を支給するだけでなく、研究成果の対外発信を促進するための特設サイトの企画・設定も2020年度中に取り組む。研究プラットフォーム群の推進においては、私立大学研究ブランディング事業で構築した大阪産業技術研究所と大阪商工会議所の関係を更に発展させ、研究プラットフォーム群の全体推進への協力および支援を要望していく。</p> <p>創出した研究グループの再編成等も視野に入れた外部資金獲得による新たな研究グループによる地域に密着した研究プロジェクトの推進 OIT-Pは、技術イノベーションの拠点として「材料開発(機能・構造)グループ」、「デバイス(半導体・生体)グループ」の工学系の研究者に加え、ビジネスイノベーション拠点としてロボティクス&デザイン工学部の研究者からなる「システム化・社会実装グループ」と知的財産学部・同専門職大学院の研究者からなる「ソリューショングループ」を組織的に連携させて、3学部横断的に研究シーズを創出してきたが、上記の校費による研究プロジェクト発足を起点にして、研究グループを再編成した研究プロジェクトを中核に、競争的資金等の外部資金を獲得し、地域に密着した研究プロジェクトを推進していく。</p>		